

京都府図書館等連絡協議会実務研修会(北部会場)概要

テーマ : レファレンス

演題 :レファレンスの技法と新ツール

講師 :小林 昌樹 氏

近代出版研究所所長 著者に『調べる技術』『もっと調べる技術』(皓星社)

会場 :宮津市福祉・教育総合プラザ 第2コミュニティルーム
(宮津シーサイドマート Mipple3 階)

日時 :令和6年12月4日(水) 午後1時30分～3時30分

参加人数 :54名(会場参加:9名 オンライン参加:45名)

概要 : 小林氏は2005年から2021年まで国立国会図書館人文総合情報室でレファレンス司書として従事されていました。司書はいくつものレファレンスを受けるうちにコツをつかむものの、そのコツは言語化されて利用者や同僚には共有されることはなく、「職人」化していると氏は考えます。しかし、レファレンス技法はもっと共有され、利用者が2回目からは自力で調べられるようになるのが望ましいです。そのために、今まで培ってきたレファレンス技法をまとめたのが著書『調べる技術』です。

本研修では、4つの事例をもとにレファレンス技法を紹介していただきました。

○「ファーストシューズ」という欧米の習慣についての文献がほしい。

→普通の雑誌記事索引では文献は見つからないが、雑誌販売サイト「Fujisan.co.jp」を記事索引として使えば、ファーストシューズの記事があることが分かる。

○「書籍館」という言葉はいつ頃使われなくなったのか？

→廃語の時期の特定は難しいが、雑誌記事索引データベース「ざっさくプラス」内の、言葉の検索結果が棒グラフで出る機能を使えば、使用頻度がある程度分かる。

○ゴールデンカムイで「不死身の杉元」のモデルになったのが船坂弘。彼の興した大盛堂書店の社史はないか。

→社史は見当たらないが、読売新聞のデータベースに大盛堂書店の広告がある。

○〈セルフ・レファレンス〉を提唱したサイトウ・フミオさんはいつ亡くなったのか。

→本を書いた人なら必ずNDL典拠に記載がある。業界内で有名だった「限定的有名人」を調べるには、少しずつフルテキスト化している国立国会図書館デジタルコレクションが便利。

以上のようなコツを身に着けるためには、カウンターの待ち時間などにデータベースなどの情報源に実際に触れてみるのが大切です。また、レファレンスで尋ねられることはほとんどが知らないことばかりです。それらに対応するには、浅く広い主題知識と汎用ツールの知識を身に着けるのが大切だと学びました。

ネットの情報源を使ってレファレンスをするため、明日から役に立つ大変有意義な研修となりました。